

研究者：氏田 倫章（所属：新潟大学歯学部 国際交流サークル代表）

事業題目：歯学部学生超短期海外派遣プログラムの推進

目的：

学生主体のサークル活動の一環として国際および地域口腔保健医療に貢献することが目的である。さらに将来の海外留学へのモチベーションを高めること、コミュニケーション能力を向上させることも期待できる。これまでの実績から、海外における歯科医療・歯科医学の実際を体験・認識することによって、国際医療貢献の重要性に対する意識や学習意欲を向上させるという点で、絶大な効果がある。

対象および方法：

対象：新潟大学歯学部学部生（歯学科 1～6 年，口腔福祉学科 1～4 年）

事業活動形式：北米・東南アジアの協定締結校歯学部への 2 週間程度の派遣による現地歯科事情見学と医療活動参加

滞在期間：2016 年 8 月，2017 年 2，3 月の 2 週間

滞在国内：アメリカ合衆国，カナダ，ベトナム，タイ，インドネシア，台湾

現地のカウンターパート：各大学歯学部国際交流担当教員および学生組織

成果：

今年は北米（アメリカ合衆国・カナダ）の 2 大学と東南アジア各地（タイ・インドネシア・台湾・ベトナム）の 5 大学の歯学部それぞれ 2～6 名ずつ派遣した。参加者は歯学科，口腔生命福祉学科の学生であり，それぞれの立場で各地の歯科医療の実態を学ぶことができた。また現地プログラムにおいて，医療過疎地における歯科医療提供活動への参加，現地歯学部教育プログラムへの参加，現地歯学部学生との交流などの経験を通して国際医療貢献の重要性に対する意識が芽生えた。参加学生は短期留学後も現地学生と SNS 等によって連絡を取り，英語でのコミュニケーション能力が向上している。また本学に來ている多数の交換留学生に対しても，本プログラムによる支援を受けて派遣された学生を中心に，積極的な姿勢で留学生の日々の生活をサポートしており，本支援の一部をこのような活動に充てることもできた。

考察：

短期留学で得られる成果は，座学だけでは学ぶことができない，生きた情報の収集と実際のコミュニケーションである。その経験は将来の歯科界を担うために必要不可欠な国際化に対応する教育プログラムにおいて最も重要な位置を占めている。本学部では，大学院学生に対して文部科学省や JSPS の事業による海外エクスターンシッププログラムの提供や若手研究者の計画的かつ組織的な海外派遣を行っている。卒前の歯学部学生に対するこのようなプログラムは，モチベーション高揚とアジアの歯科医療に目を向けるための重要な出発点となっており，卒後の国際化対

応教育プログラムに繋がる非常に重要な事業である。

〈タイのチェンマイ大学での活動風景〉



図1 チェンマイ大学病院内での診療見学の様子。タイと日本の歯科診療の違いを理解する機会を得た。



図2 タイの訪問診療、高齢者歯科の現状に関して学生、先生方とのディスカッションを交わしている様子。

〈台湾の陽明大学での活動風景〉



図3 セミナー室にて、陽明大学の教員の方から陽明大学の診療システムを教えて頂いた。



図4 現地の学生との終日観光の様子。観光を通じて、日台の文化交流の密接さを実感。

〈ベトナムのハノイ大学での活動風景〉

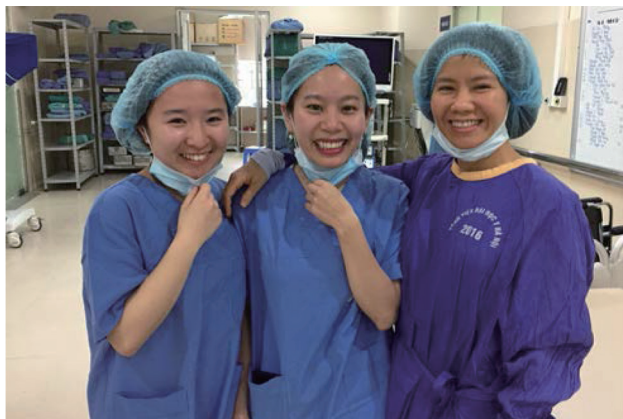


図5 口腔外科の先生方との診療見学の様子。日本との違いとしてベトナムではバイクに乗る人が多く、外傷で来院される患者さんが多いことを学んだ。



図6 現地学生との交流の様子。親交を深め、日本とベトナムの文化、風習の違いをお互いに教え合いながらこれからの各国の歯科の方向性について語り合った。

〈カナダのブリティッシュコロンビア大学での活動風景〉



図7 大学病院の診療見学を学内の教員の方にコーディネートして頂いた時の様子。北米の診療のレベルの高さを間近で見て感じる事ができた。



図8 現地学生達のPBLに参加した時の様子。ディスカッションを通して、海外の学生の知識の豊富さを痛感した。



図9 現地学生と教員の先生方との夕食会の様子。日本とカナダの文化、気候等や歯科診療の違いについて話し合いながらそれぞれの将来についても語り合い、非常に良い刺激を受けた。

〈新潟大学歯学部国際交流サークルの活動風景〉



図10 インドネシアのインドネシア大学、ガジャマダ大学とブラジルのノバファピ大学の学生が新潟大学に交換留学生（計9名）として訪問された時の様子。



図11 交換留学生の皆さんとカービングコンテストと歓迎パーティーを開催した時の様子。交換留学生にカービングを行ってもらっただけでなく、新潟大学に来られている外国人大学院生の先生方にも参加して頂き、実りある交流会の場となった。